

平成28年度 第2回 磐田市廃棄物減量化等推進審議会

日時：平成28年11月17日（木）午前10時～
会場：磐田市クリーンセンター2階研修室

次 第

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

- ・平成29年度ごみの排出削減に向けた取り組み（案）について
- ・平成29年度一般廃棄物処理実施計画（案）について

4. 報告

- ・今年度の主な取り組み
- ・その他

5. 閉会

ごみの排出削減に向けた取り組みについて ～H29 年度取り組み（案）～

議事1

◆水切り器を活用した生ごみの水切り啓発

可燃ごみの約 50%を占める水分を削減する

- ・イベントや出前講座等で水切り器を配布予定（1,000 個）
- ・具体的な生ごみの水切り方法や水切りをすることで得られる効果を中心に啓発する
- ・水切りに取り組む市民を増やし、ごみの減量を図る



◆雑がみ回収袋を市内全小中学校へ配付予定

可燃ごみの約 30%を占める紙類を削減する

- ・雑がみ回収袋を市内全小中学校へ配付予定（15,000 個）
- ・雑がみのリサイクル及び資源回収等に出せることを周知する



◆リサイクル意識啓発下敷きの作成・配付予定

意識啓発及びごみへの関心を高めることを目的とする

- ・クリーンセンターを施設見学する小学 4 年生を対象に配付予定（2,000 枚）
- ・内容は対象者にあったものを検討する



下敷きイメージ

◆イベント参加による啓発活動の継続

意識啓発及びごみ減量・リサイクルへの関心を高めることを目的とする

- ・軽トラ市や消費者のつどい等のイベントに出展する
- ・市民へ直接働きかけをすることで、より高い啓発効果を見込む



◆レジ袋削減に向けた取り組み

レジ袋の排出事業者や市民（お客さん）へのレジ袋削減に向けた啓発を目的とする

- ・レジ袋削減表示プレートの作成・配付予定（500 個）
- ・コンビニ（75 店舗）やスーパー（レジ袋有料化店 32 店舗）等に設置を依頼



表示プレートイメージ

ごみ排出環境の整備に向けた取り組み ～H29 年度取り組み（案）～

議事1

◆資源ごみの排出環境の充実

○古紙回収コンテナの整備

- ・公会堂や交流センター等へコンテナ普及に向けた提案・紹介
- ・再資源化を促進するため、市民に身近な場所に設置し、排出環境の充実を図る

○資源物の回収を行っているスーパー等の紹介

- ・ガイドブック（H29年3月改訂）や分別アプリ、ホームページ等に掲載し周知する

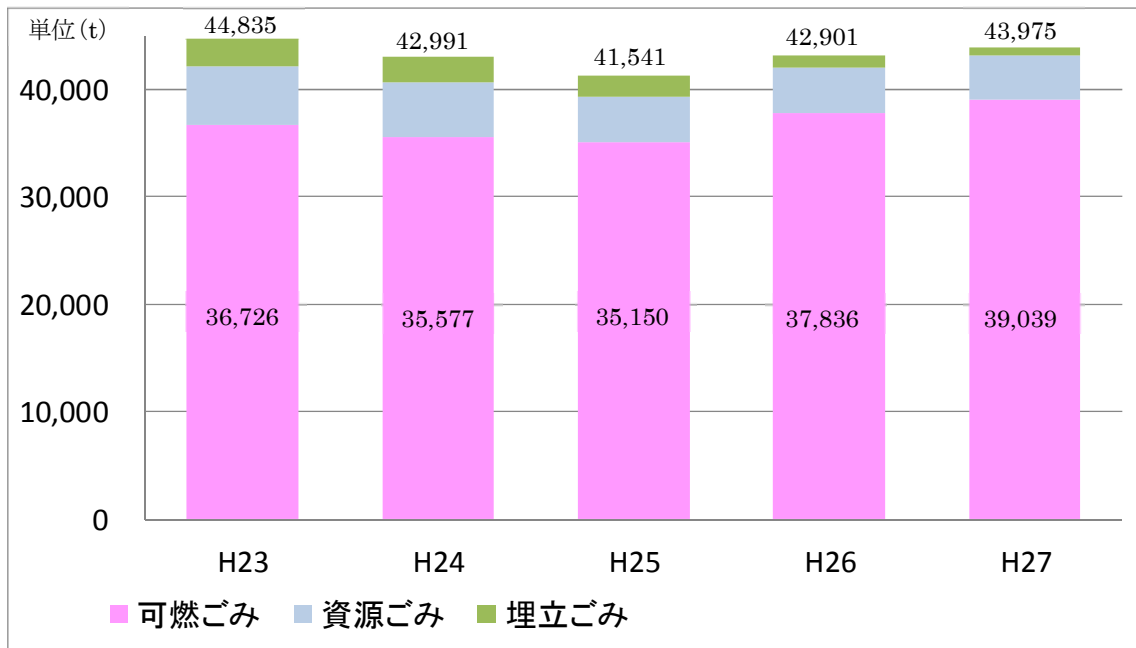


◆ごみ排出困難者対策

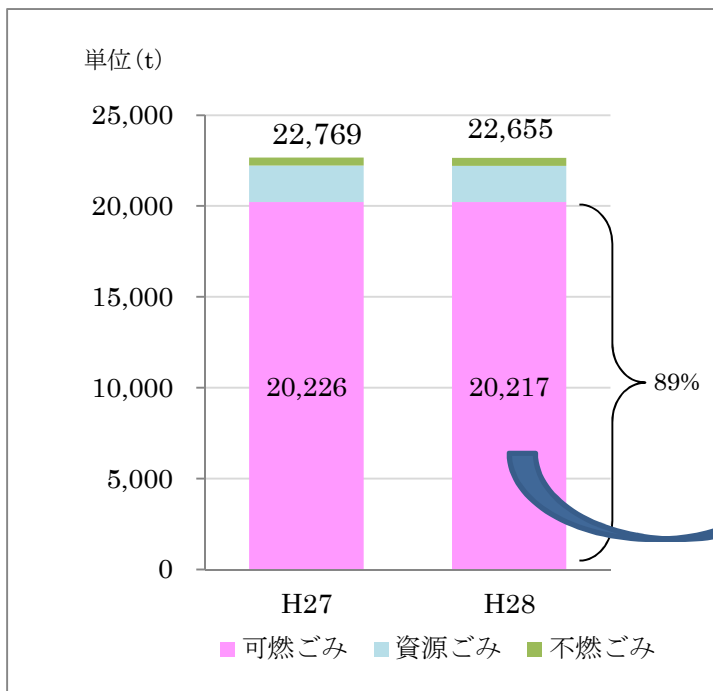
将来、市民が安心してごみを排出できる制度の検討

- ・高齢者や障害者世帯等のごみを出すことができない人が増加することが予想される
- 県内外の自治体の対応状況（制度、対象、コスト等）を調査
- 地域にあった対応・支援の仕方を検討（コストや効率性）
- 福祉部門との情報交換による現状把握

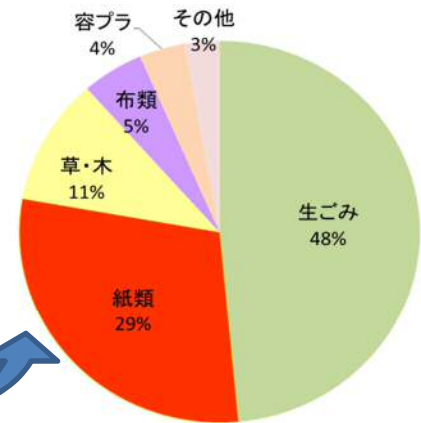
◆ごみ排出量の推移(H23～H27)



◆H27・H28(4月～9月)排出量比較



可燃ごみの内訳



※可燃ごみに含まれる水分の割合は全体の約半数 (47.9%)

◆ごみ排出状況

- ・直近2年間は可燃ごみの排出量が増加し、H28排出量は前年並みの見込み
 - ・ごみ排出量のうち、可燃ごみが約9割を占めている (水分と紙類の割合が高い)
- ⇒「水分」と「紙類」の削減が課題

※赤字は今回追加部分

5 一般廃棄物の排出抑制のための方策に関する事項

(1) 市が講ずべき方策

ア 磐田市廃棄物減量化等推進審議会

- ① 一般廃棄物の減量化、資源化及び適正処理の推進に関する事項その他必要な事項について審議する。

イ ごみの減量・リサイクルの推進

- ① 家庭から排出されるごみを減量しリサイクルを推進させるために、以下の取組みを実施する。

取組名	具体的な内容
資源ごみの拠点回収・BOX回収の実施	リサイクルステーションで資源ごみを回収するほか、古紙の拠点回収、パソコン・携帯電話等のBOX回収を実施する。
雑がみの資源化	雑がみ回収袋を市内全小中学校に配布するほか、広報や出前講座等で雑がみ分別に関する周知を行い、資源化の促進とごみ排出量の削減を図る。
剪定枝の資源化	剪定作業で発生する樹木をチップ化し、資源化を推進する。
レジ袋の削減	レジ袋削減のためにマイバックの持参を買い物袋持参キャンペーン等の実施により呼びかけるほか、市民団体・事業者・行政が協働してレジ袋の有料化を推進する。コンビニやスーパー等へのレジ袋削減プレート設置により、一層のレジ袋削減を周知する。
ごみ減量・リサイクル活動の支援	資源集団回収の奨励や生ごみ堆肥化容器設置費用の助成を行い、家庭から排出されるごみの減量・リサイクルを推進する。 3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動を行う団体の活動を支援することにより、3Rの推進と市民の意識を醸成する。
分別ルールの周知	ガイドブックやカレンダー、ごみ分別アプリ等により分別の理由及び目的を市民へ広報することで共通意識を醸成し、より一層のごみ減量・リサイクルを推進する。
外国人への啓発	分別アプリやガイドブック等を活用して、ごみの出し方を周知する。
ごみ減量・リサイクル意識啓発	施設見学や出前講座を実施し、ごみの減量やリサイクルの必要性について啓発する。また、軽トラ市等のイベントに出展し、市民のごみに関する意識の向上を図り、より一層のごみ減量・リサイクルを推進する。
情報発信	広報いわたやホームページ、分別アプリ等を通じて、ごみの減量やリサイクルに関する情報を随時発信する。

ウ ごみの適正処理

- ① 発生するごみの量をできるだけ抑え、再使用、再生利用に取り組んだ上で、さらに排出されるごみについて、より適正に収集し、処理するためのルールづくりを進める。
- ② 磐田市クリーンセンターでの搬入物検査を実施し、搬入される事業系一般廃棄物の可燃ごみからの紙類・古着の資源化を進めるとともに、排出事業者や収集運搬許可業者に対し可燃ごみへ産業廃棄物が混入されないよう指導を行う。

(2) 市民が講ずべき方策

ア 市が示すごみ出しのルールを遵守し、自治会等が管理しているごみ集積所へ収集日の朝8時までに排出するものとする。

イ 市民は廃棄物の排出削減に努め、再生品の使用等により再利用を図り、再生できるごみは原則、資源ごみとして分別し、廃棄物の減量や適正な処理に関して市の施策に協力するために、以下のことに努めるものとする。

生ごみの水切り	生ごみを排出する時はひとしぼりするなど、水分を切るための策を講じることで可燃ごみの削減に努める。
マイバックの持参	レジ袋や紙袋を断ることで、ごみの排出抑制に努める。
簡易包装や詰め替え品の活用	簡易包装商品や詰め替え用商品、リターナブル容器入り商品を選択することで、ごみの排出抑制に努める。
古紙の資源化	家庭から排出される古紙（新聞・雑誌・雑紙・段ボール等）は自治会等で実施する集団回収や回収ステーション等へ排出することで、資源化に努める。

(3) 事業者が講ずべき方策

ア 事業系廃棄物の発生を抑制し、再利用を図り、再生できるごみは原則、資源ごみとして分別し、事業系廃棄物の減量及び適正な処理に関して市の施策に協力する。

イ 事業者は、排出者責任、拡大生産者責任を自覚し、事業活動に伴って生じるごみを自らの責任において適正に処理し、使い捨て商品・容器の販売の自粛や包装の簡素化等に努めるものとする。

ウ 再生品の原材料としての利用の促進及び回収体制の整備等、資源化への取り組みを推進するものとする。

◆雑がみ回収袋の作成・配付

- ・2,000個作成し施設見学や出前講座などで配付（11月現在1,700個配布）
- ・新聞・雑誌に比べて再資源化意識が低い雑がみのリサイクルを促進する
- ・小中学校の資源回収の様子を確認したところ、一定の効果は期待できる



◆ごみ減量アイデアコンテストの実施

- ・市民からの応募20件（募集期間7～8月の1ヶ月間）
- ・ごみ減量効果が期待でき、誰でも手軽に取り組めるアイデアを選考し表彰
- ・全戸配布チラシやホームページ等で紹介し、同様の取り組みを行う市民を増やすことでごみの減量を図る



◆軽トラ市への出展

- ・雑がみ回収の推進、生ごみの水切り、ごみ排出量や減量方法について紹介
- ・雑がみに関するクイズや水切り器を使った水切り体験等、来場者体験型の内容を実施し、雑がみ回収袋や水切り器を配布
- ・ブース来訪者は約130名（親子連れが多かった）
- ・市民への丁寧な説明や疑問に直接答えることができ、周知及び啓発効果は高い



◆分別ガイドブックの改定

- ・平成29年3月に全戸配布予定
- ・市民がごみを排出しやすい、役に立つことを第一に作成中
- ・3Rに関する取り組みについても掲載予定



◆ごみ分別アプリの製作

- ・市民のごみ分別・リサイクル意識の向上、適正なごみの分別ができる環境づくりを進めるため静岡産業大学と共同で製作
- ・11/28 市長定例記者会見においてプレス発表後、運用開始予定

【主な機能】

- ・分別検索機能（ポルトガル語、英語にも対応）
- ・収集日確認及びお知らせサービス
- ・市からのお知らせや情報発信（ごみ減量・リサイクル啓発事項の紹介、ごみ処理施設の案内、補助制度の案内、よくある質問 Q&A 等）

【使用方法】

以下のアドレスまたはQRコードからアクセスできます。

<http://www.ssu.ac.jp/iwata/>



アプリ画面

マイバッグ 持参呼び掛け
 いわた消費者協会
 12日、買い物客にマイバッグ持参を呼び掛ける啓発活動を磐田市内のスーパーなど6店舗で行った。

静岡新聞
 平成 28 年 10 月 13 日 (木)

「マイバッグを持参し、ごみ減量に努めてほしい」と話した。市によると、市内のスーパーなど32店舗でレジ袋の提供を断る買い物客は、全体の93・8%（5月現在）。

た取り組み。同市今之浦のアピタ磐田店では、同協会会員が店内でのぼり旗を持ち、少ない自然繊維素材のポンジ100個を配った。川島あつ江会長は

買物品客に啓発品のポンジを配る会員（右）

＝磐田市今之浦のアピタ磐田店

中日新聞
 平成 28 年 10 月 27 日 (木)

いそじ会 大臣賞喜び

長年のごみ減量など取り組み評価 磐田市長に報告

磐田市の消費研究グループ推進功労者の大臣賞をいそじ会の現在の会員数は二十六人。一九七六（昭和五十一）年から、上質紙回収事業や牛乳パックなどを使用した再利用製品の作製実習など、磐田市の環境問題、ごみの減量や再資源化への取り組み、市民への啓発活動を四十年にわたり続けてきたことが認められた。二十日に徳島であった全国大会で表彰を受けた。

安間会長らは活動内容を渡部市長に報告。渡部市長は「継続的な活動が評価されたと思う」と受賞をたたえた。（高柳義久）

表彰状を見せながら受賞報告する安間美恵子会長（右から2人目）ら＝磐田市役所で

静岡新聞
 平成 28 年 11 月 2 日 (水)

環境保全活動で大臣賞

磐田のいそじ会が喜び報告

地域の環境保全活動に取り組み磐田市の消費研究グループ「いそじ会」が、2016年度の国の循環型社会形成推進功労者環境大臣賞を受賞した。代表者3人がこのほど、市役所渡部修市長に報告した。

同会は1976年に結成。家庭から出たごみの再利用法のアイデア提案や、焼却場や埋め立て地の視察研修を行うなどの活動を続ける。現在は市役所の女関前で月1回、チラシなどの上質紙の回収事業に取り組む。

同会の安間美恵子会長(65)は「先輩たちが長年続けてきたことが日の目を見た。次は私たちが若い世代に伝えていきたい」と話した。

渡部市長に受賞を報告する安間会長（右から2人目）＝磐田市役所

Web版いわたまちの話題

みんなで軽トラ市 いわた☆駅前楽市

9月11日(日)に、JR磐田駅前ジュビロードと駅北口広場で、「第23回みんなで軽トラ市 いわた☆駅前楽市」が開催されました。秋晴れの中、たくさんの来場者でにぎわいました。

今回も県下最大級の100台以上の軽トラがジュビロードに並び、新鮮な野菜や海産物、すてきな雑貨などの店や、体験コーナーなどさまざまな出店により、子どもから大人まで楽しめるイベントとなりました。

中でも、市ごみ対策課が初めて出店した「はじめようごみ減量・リサイクル」のブースでは、来場者はごみクイズや水切り体験などでごみの減量やリサイクルの大切さを学ぶことができました。また、「防災体験広場」では、消防署職員により子どもたちが消火器の使い方などを体験しました。

問い合わせ：磐田市商工観光課 電話：0538-37-4819



たくさんの方が来場され、ジュビロードがにぎわいました



かき氷や焼きそばなどおいしい食べ物がたくさん売られています



ごみクイズに挑戦する来場者



防災体験広場で消火器の使い方学びました

[≪ 前の記事 | イベントレポート](#)

掲載日：2016年09月12日

磐田市ホームページ 平成28年9月12日(月)